

開講式で、参加者を激励する新渡教育長



地元高校から大学へ 町教委が短期講座

野辺地町教育委員会は26日、町中央公民館で、町内にある野辺地高校と野辺地西高校の生徒を対象とした短期講座をスタートさせた。今年1月に続き2度目の試みで、夏期講座は初めて。今回は両校の2、3年生計24人が参加し、夏休み返上で学習に励んでいる。

野辺地

町教委と両校が2018年に締結した教育連携パートナーシップ協定に基づき取り組み。町内にある県立と私立の高校2校の大学進学率を高めることにより、両校への進学者を増やす目的で、事業費の大半を町教委が負担している。

講座は30日までの5日

間。2、3年生の学年ごと、1日当たり国語、数学、英語の3コマあり、3年生は大学入試を見据えた小論文の講義もある。県内の予備校で勤務する講師3人が4年制大学進学を見据えた内容を教える。

開講式で、新渡幹夫教育長は「講習には、税金を使っており、町民が応援している。自分の夢をつかむために一生懸命勉強してほしい。公式を覚えるだけでなく、使えるようにしてほしい」と激励した。

四年制大学への進学を目指す野辺地高校3年の荒谷史玖さんは「普段と違った環境で勉強できるのでありがたい。一つでも多く吸収したい」と話した。

（兼平昌寛）